

KENZAI NAVI Journal



日本女子大学 学長

篠原聡子

永山祐子建築設計 主宰

永山祐子

SPECIAL FEATURE INTERVIEW

建築の 新たな価値観に フォーカス



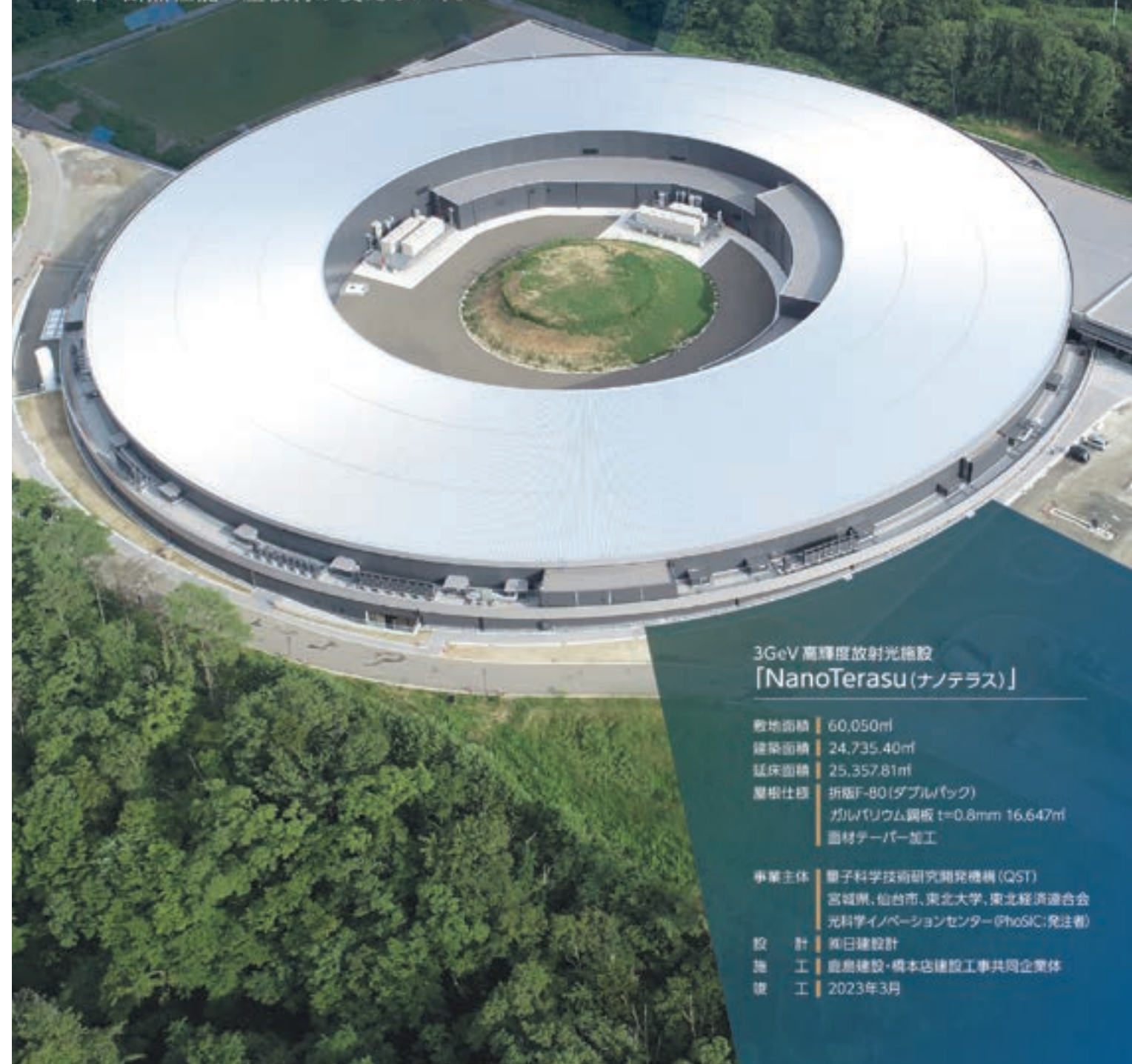
都市建築において目指すもの、
それは木材の復権

東京木材問屋協同組合 理事長

庄司良雄

美しい屋根には、 美しい未来がある。

計2,240枚からなる3GeV高輝度放射光施設の屋根。
科学の進歩、地域の発展を、
高い断熱性能の屋根材が支えていく。



3GeV 高輝度放射光施設
「NanoTerasu (ナノテラス)」

敷地面積 | 60,050㎡
建築面積 | 24,735.40㎡
延床面積 | 25,357.81㎡
屋根仕様 | 折板F-80(ダブルバック)
ガルバリウム鋼板 t=0.8mm 16,647㎡
面材デーパー施工

事業主体 | 量子科学技術研究開発機構 (QST)
宮城県、仙台市、東北大学、東北経済連合会
光科学イノベーションセンター (PhoSIC; 発注者)

設計 | 西日建設計
施工 | 豊島建設・橋本店建設工事共同企業体
竣工 | 2023年3月



CONTENTS

04 SPECIAL FEATURE INTERVIEW

既存の殻を打ち破り、「デザイナー目線」から生まれた、

建築の 新たな価値観に フォーカス



06 経年変化さえ趣となり愛着が生まれる建築 ——それが究極のサスティナブル

永山祐子建築設計 主宰／一級建築士 永山祐子

12 成功のカギは「仕事への当事者意識と周囲を巻き込む力」

日本女子大学 学長／建築家 篠原聡子

18 PROJECT STORY

出会いと創造

20 家族みんなが楽しめるショールームの目玉として「遊び環境」を採用

株式会社シアーズホーム×株式会社アネビー

22 改修工事現場における、安全・安心・美観を追及

株式会社国藤産業×中央ビルト工業株式会社

24 MANUFACTURER 新たな時代に適応する解決策を、多様な選択肢から

26 装飾材に「曲がる」という画期的なインセンティブを加える

みはし株式会社

28 和紙づくり職人を大切にし日本の伝統文化を届ける

株式会社和紙来歩

30 シリーズ座談会〔前編〕 東京木材問屋協同組合

都市建築において目指すもの、 それは木材の復権

木材のやさしさ・強さ・美しさを具現化して魅せます

東京木材問屋協同組合 理事長 庄司良雄



34 INFORMATION

建材ナビ&かたなび

LIVING DESIGN CENTER OZONE

建築・インテリアのプロが商品探し・情報収集に活用できる

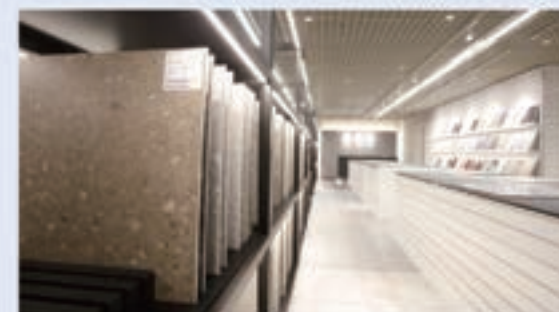
リビングデザインセンターOZONEは、建材や金物、家具のショールーム・ショップが約30集まる、建築・インテリアの情報センター。建築設計やインテリアの仕事に携わるプロの方々にご活用いただいています。

01

商品を実体感できる

SHOWROOM / SHOP

無垢・複合フローリング、内外装タイル、デザインガラス、金物など約30のショールーム・ショップを構え、商品の機能性や素材感をひとつひとつ体感することができます。ご要望に応じて、商品やショールームをご案内するツアーも開催しています。



02

比較・検討できる

OZONE CATALOG LIBRARY

建材・住宅設備・家具など、様々なメーカーのカタログやサンプルブックを閲覧できる【OZONEカタログライブラリー】を自由にご利用いただけます。カタログやサンプルブックはカテゴリ別に分類され、各メーカーの特色に触れながら、商品の比較・検討ができます。



03

最新情報を収集できる

MAIL MAGAZINE

ショールームの商品情報をはじめ、イベントやセミナー、OZONE カタログライブラリー出展メーカーの製品情報などをいち早くお届けします。



リビングデザインセンターOZONE（東京ガスコミュニケーションズ株式会社）

〒163-1042 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 3-7F

tel: 03-5322-6500(代) 営業時間: 10:30-18:30 休館日: 水曜日休館（祝日を除く）、夏期・冬期休館

<https://www.ozone.co.jp/pr/prn/>



永山祐子建築設計主宰
一級建築士

永山祐子

素材の製作現場は
クリエイターにとって
「宝の山」



SPECIAL
FEATURE

Interview

建築の新たな 価値観にフォーカス

既存の殻を打ち破り、「デザイナー目線」から生まれた、

人々が集まり五感で心地よさを感じる居場所づくりを実践する注目の建築家、

永山祐子氏。120年以上にわたり日本の女子高等教育をリード、けん引してきた

日本女子大の学長でもある建築家、篠原聡子氏。

お二人の女性建築家に、日本の建築における新たな価値観の創出と提案、建築の
持つ秘めたるパワーを引き出し、エナジーに換え、未来に貢献する独自の手法
などについてそれぞれ、お話を伺いました。



日本女子大学 学長
建築家

篠原聡子

建築デザインが示す、
新たな視点
「ジェンダーキャンセル」

永山祐子建築設計 主宰
一級建築士

永山祐子

PROFILE

(ながやま・ゆうこ)
1975 東京都生まれ
1998 昭和女子大学生生活科学部生活美学科 卒業
1998 青木淳建築計画事務所 入社
2002 青木淳建築計画事務所 退社
2002 有限会社永山祐子建築設計 設立

有限会社永山祐子建築設計



経年変化さえ趣となり 愛着が生まれる建築 —それが究極のサステイナブル

国内外で話題の大型プロジェクトを手掛け、注目を集める気鋭の建築家「永山祐子」氏。
マテリアルへのこだわりや建築におけるサステイナブルへの取り組み、
また、1Fデザインアワード2023で受賞された作品にまつわる
心温まるエピソードなどについても語っていただいた。

五感で感じる

マテリアルを

適材適所に

秋葉 永山先生は、ご自身の作品に使用する素材の特性や性能についての研究や情報収集などは、どのようになさっているのでしょうか。

永山 そうですね、例えば色々な街に出かけてそこにある建物を見たときなど、使われているこの素材は一体何だろうと興味を惹かれることもありますし、こういう素材があったらいいなと思うときには、それこそ普通にグーグルで検索してみたりします(笑)。あとは、なかなか時間が取れず、頻繁には行けていな

いですが、建築関連の展示会などで面白いマテリアルに出会ったときには、なるべくそこで情報収集するようにしています。

気に入ったマテリアルなどの場合は、リピートして使いたいのです。それらを作っている信頼できるメーカーさんと密に付き合っていくようにしています。そしてプロジェクトごとに少しずつ違うものが欲しいので、オリジナルで製作をお願いしたり、次にそこに手を加えてもらったりと、一度いいお付き合いができたメーカーさんとは長くお付き合いをしています。

秋葉 今、先生が最も注目している素材や、これから使ってみたい建材などがありますか。

永山 最近、リアルな空間に対して仮想空間やバーチャル空間などが注目を集める一方で、リアルな空間にしかない質感などが人々に見直され始めているような気がします。例えば左官、木材など質感や、温度感のあるものといいますが、マテリアルによって暖かいや冷たい、また音の響き方などの違いがありますので、それらを適材適所に使えるよう、まさに五感で感じるマテリアルの選び方を最近は何に意識しています。そういう意味で以前にも増して、マテリアルのことをより深く知りたいと思うようになりました。

ですから最近是国内外で、そういう特殊なマテリアルを作っている工場などがあれば、なる

べく訪れることにしています。その作り方の中から、作っている人たちがさえ気づかない新たな良さをデザイナー側からの視点で気づくこともありますし、インスピレーションをもらいながら考えるということが大切なので、最近は何に工場訪問が増えてきましたね。

マテリアルを

決めるまでの

プロセスから生まれる

ストーリーを

お客様と共有する

秋葉 素材を確かめるために自ら製作の現場へ足を運ばれる。

確か『情熱大陸』の最後のシーンでも山に入って行かれましたね。
永山 さすがに全ての素材についてそうするというわけにもいきませんが、この素材は特に重要だと思うものについては、自分で作っているところに行き、作り手の方と直接話をします。そうするとそれまでの通り一遍の情報では知り得なかった、素材の別の活用法や可能性が見えてきますので、そういうのを上手く使いたいと思います。

『情熱大陸』で私が山に入っていくシーンでは、「何をしていたの?」とよく聞かれるのですが(笑)、実はあれもマテリアルを収集しに行っていました。先日オープンした松坂屋名古屋店ラウンジで使うテーブル天板

の中に入れる素材を探しに……。そういうことがとても大事だと思っています。プロジェクトメンバー皆で森に行き、実際に枝を拾ってそれらも素材の中に入れ磨きをかけてもらう、こう使おうとかああ使おうとかを考える、そこにマテリアルを決めるまでのストーリーが生まれるわけですが、そのストーリーをお客様にもとても喜んでいただきました。

例えばこれはうちでデザインしたテابلルなのですが、テラゾーに使わなくなったタイルを入れて磨いてもらいました。テ

ブルの素地部分や床のベースにもリサイクルガラスを入れることでストーリー性を込められたと思っています。タイルは全てオリジナルで一からデザインしたものを、愛知県多治見で作ったものです。

特に最近はこのように、マテリアルの中にもプロジェクトとしてのストーリー性が求められるようになり、ちょっと贅沢なので全部が全部というわけにはいきませんが、一からオリジナルで作ることも多くなっています。このように語り継がれるようなストーリー性があることで、

愛着が生まれ大切にしてもらえると、スクラップ&ビルドということにはならず、サステイナブルな空間として長く大事にしてもらえらると思うのです。

素材の製作現場は
クリエーターにとって
「宝の山」

秋葉 永山先生の作品を拝見すると、普段素材メーカーさんが意図している使い方を越えた意外性の中から新しい可能性が広がっているようですね。



上：情熱大陸でも登場した山の中でのマテリアル取集
下：収集したマテリアルを使用した松坂屋名古屋店ラウンジ。
この施設の内装は全て手掛けており多治見のタイルなども使用している。

永山 そうですね、メーカーさんが思っている「良い」という感覚と私たちが思っている「良い」という感覚がもしも少し違っているのかもしれないね。

例えば、先日（2023年6月）YAMAGIWAさんから私がデザインした照明が販売されたのですが、それは真鍮やアルミで逐次成形といって、特殊な成型方法で特殊なノズルを3次元的に押し当てながら形を作っていくのですが、その形の作り方の特徴で金属が最後、くるっと曲がってしまったのです。これは失敗しましたと持って来られたのですが、私はすごくいい

なと思いました。少しだけクルンと曲がる、この曲がる感じが一つ一つ表情が違っており、3次元逐次成形という新しい技術の中に生まれた「手仕事感」が新鮮で、そのまま採用にしました。

今思えば、失敗を生かそうという私たちの考えは、メーカーさんにとっても発想を180度転換するきっかけとなり、そこに何か可能性というか面白さが広がるのを感じます。製作の現場に行くときよく魅力的なものに出会います。たとえ捨ててあるものでさえ私たちにとっては宝物かもしれないのですから（笑）。

秋葉 建築や設計における、サステイナブルやエコロジーへの対応はどのように。

永山 最近、廃材利用を積極的に取り組んでいて、先ほどお話しした廃タイルも、普通のタイルをただ入れただけでは、ああいう変わった形状で見えてこないのですが、割れたものを入れているので思わぬ形が見えてきていて（笑）。廃材をこんな使い方したら、こんなに美しくなっ

があることが問われるのです。私は、建築におけるサステイナブルとは何ですかとよく聞かれることがあるのですが、先ほどお話ししたようにやはり愛着を持って、長く大切にされる建物を作れば、すぐに壊されることなく、一番のサステイナブルだと思っています。結局、リユースなどにしても次に

何か違った形に変換しようと思うと、余計なパワーがかかってしまうので、そのままキープして大事に使ってもらうことこそ一番のサステイナブルだと思います。素材にはどうしても経年変化はあるので、その経年変化が美しいと思えるような、味や趣として捉えられるような素材を使うことがサステイナブルで

はないかと思っています。**秋葉** 建材を探す際に何を重視して検索しますか。また、検索した製品を採用する決め手はどんなところでしょうか。
永山 毎回、うちのスタッフも検索して探すのですが、検索ワードのセンスをより磨かなくてはと思います。何の言葉を入れるのかを考え、また海外サイト

も探すので英語で入れてみるなど、私もネットサーフィンしつつ、意外とアタリを引くって自分で思っているのですが（笑）。私達がマテリアルを選定する時には、まずサンプルを依頼します。例えば200角のピースがサンプルとして送られてきて、サンプルの段階で素敵だなどと思っても、実際の大きさ、シ

また、海外ではサステイナブルというキーワードはとても重要であると感じます。最近行ったドイツのーフデザインアワード※の授賞式では、審査でもサステイナビリティは重要な項目であり、そういう考えがしっかりベースにあることが当たり前となっています。その上で美しさ、楽しさ

※ーフデザインアワード・ドイツ・ハノーバー工業デザイン協会が毎年主催する、全世界の優れたデザインを選定するデザイン賞。アメリカのIDEA賞、ドイツのレッドドット・デザイン賞とならぶ世界3大デザイン賞の一つ。

Column 循環のデザインにのせ、 サステイナブルを実現



Tokyo Midtown DESIGN TOUCH2022 うみのハンモック

海の波のように見える連なるハンモックとタープの素材は、廃棄された漁網をリサイクル。タープの下で自然環境に意識を巡らせてほしいという想いから生まれた作品。



2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博) パナソニックパビリオン「ノモの国」

循環を表すモチーフが集まり、ファサード全体を形成することで「私たちも循環する世界の一部」であることを象徴。サステイナブルとウェルビーイングを表現に取り入れ、素材やエネルギーの循環を肌で感じる建築とすることで来場者の感覚に訴えかけます。



FUWARI (株式会社 YAMAGIWA)

シェード製作を担当。逐次成形という特殊な製法により生まれる内側にくるんと巻いた独特のカーブは、1点1点僅かに異なる形となっている。

チュエーションで使うとイメージが違ったりします。施工例を見たり、今だったらかなり忠実なCGで起こしたりもできるの
で、最終的に使った時のイメージやスケールを様々な方法でシミュレーションをします。光との組み合わせは特に大切です。昼間に外部で見たり、様々な色温度の照明を当てて夜の状況を確認したりと自分たちで実物で実験しています。事務所は色温度や照度がコントロールできる照明を使っているので実際の照明のシチュエーションに合わせてどこでも実験ができるようにしています。マテリアルを選定するための大事なプロセスですので、実験をメーカーさんがサポートしていただけると嬉しいなと思います。

秋葉 素材の使い方で、シミュレーションができるといいですね。
永山 今だったらCGパースで、この素材をここに使い、あの素材を使ったらこんな空間になりますよなどが簡単に着せ替えのようにすぐできますよね。海外のサイトだと家具の色などサイ

ト上でバツて変えたりして、素材の組み合わせも自由自在、そういった工夫をされているのは特に家具メーカーさんですね。クライアントにプレゼンするのにサイトに用意された3D素材をプレゼンパースに入れることができとても便利です。具体的な検討ができます。そういう3D用の素材をどこかに置いておいてもらうだけでもすごく助かります。今3D検討は不可欠になっています。VRによって実際にその空間に入り、歩き回ることができ、以前よりさらに体感的な検討ができるようになりました。

人々が集まり
憩える空間を創り、
提供できる楽しさを

秋葉 先生が建築家として、未来に向け発信したい、社会にこんな影響を与えたいというものがあればお話しください。

永山 そうですね。先ほどもお話ししたように、今はバーチャル空間でオンラインミーティングなども増えており、それはそれで

非常に便利だなと思います。しかし、私達はリアルな空間を作る立場の人間ですので、やはり魅力的なマテリアルや、五感に訴えかけるような空間などを作り、なるべくそこに人が集まり、アクティブに動き回ってもらいたい。社会がそういう未来像になって行つてほしいなと思います。

皆が家の中にいて、オンラインで済んでしまうのはやはり寂しいじゃないですか。せつかなら外に出て、都市の空気や大自然の空気、その場所その場所にある空気を感じてもらい、五感で空間そのものを楽しんでもらいたい。

人が外に出るきっかけとなるような建築を作っていけば、そこに散歩に行きたくなったりすると思うのです。私は以前、群馬県の前橋市でJINS PARKというものを作ったのですが、そのパークにあるお店の方に聞いたエピソードで私がとても好きなお話があります。お店の方によると、あるおばあさんが毎日必ず同じ時間に、コーヒーとパンを買い、同じ席に座るそうです。病院に行く途中立ち寄って

くださるというのが毎日の習慣のようです。そういう場所が作れたというのはすごく嬉しいなと思いました。家では誰ともコミュニケーションを取らないよう

な一人暮らしの方などが気軽に立ち寄れる場所、ただそこに座ってそこに集まる人々を眺めるだけでも言葉を交わさなくてもある種のコミュニケーションが生

まれていると思うのです。そのためにはまず来なくなるような魅力的な場所が必要です。その場所を作り出しているのは心地よさを感じるマテリアルであったり、家具であったりだと思います。パンデミック以降、アクティブに人が動くということの大切さを改めて実感しましたので、なおさらそうに感じています。

秋葉 本日は貴重なお時間をいただきました。本当にありがとうございます。色々と興味深いお話をお伺いできて大変うれしかったです。

Column

東急歌舞伎町タワーの設計では、3Dを活用し全体を確認

東急歌舞伎町タワー

先日、設計した東急歌舞伎町タワーのようなオバースケールのものは特に、模型でも部分的に1分の1モックアップを見ても想像しきれない部分もあるので、全て3Dで立ち上げ、都庁側から、または大久保側から見た光景、そして電車に乗っている時に見える光景など全体の見え方を確認ができるようにしました。マテリアルを選定する段階ではそういう3D検討やVR検討を入れるのが主流になってきています。ただ、それはあくまで全体把握の為で、本物のマテリアルの質感を実際の光で見るなどのテストは重要です。

INTERVIEWER

【取材】
秋葉 早紀 (あきば・さき)
建材ナビ広報担当
二級建築士

マテリアル選びの考え方など、想像力や発想にとっても感銘を受けました。魅力的な場所を生み出す永山先生のこだわりの凄さと、人を惹きつける魅力も感じました。

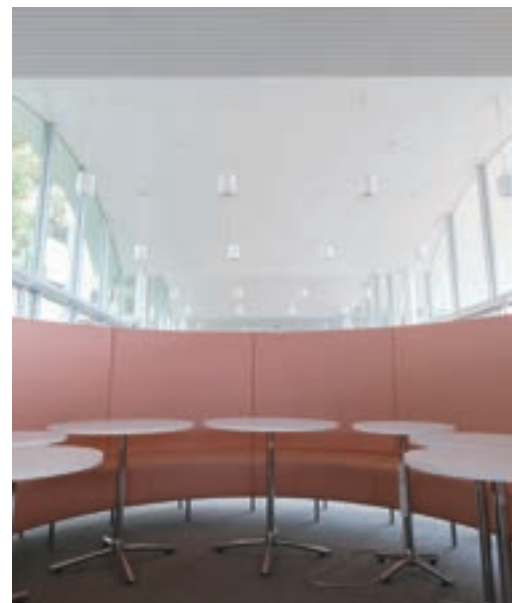


©阿野太一 + 楠瀬友将

JINS PARK 前橋

アイウェアブランド JINS のロードサイド店舗の設計。眼鏡だけでなく、美味しいパンやコーヒーを販売したり、地域住民が主催するマルシェやトークイベントを開催したりと、公園の広場のような場所になることを想定している。

©阿野太一 + 楠瀬友将



杏彩館（きょうさいかん）

曲線的なソファで個々のスペースを確保し、友人との対話を楽しんだり、一人で静かに過ごしたり、自由に利用することができる。ミーティングスペースには、プロジェクターを配備し、ミニイベントの開催も可能。軒下のスペースには、キッチンカーなどの乗り入れもできる。

成功のカギは 「仕事への当事者意識と 周囲を巻き込む力」

一人ひとりの未知なる可能性を引き出し、知性と個性に磨きをかけ、自分らしく生きるための一步を踏み出す力を養う。120年以上にわたり、日本における女子高等教育をリードしてきた日本女子大の教育理念を、建築デザインという分野で自ら実践、結実し、次世代へと繋ぐ篠原学長の熱い思いを伺いました。

日本女子大学 学長
建築家

篠原聡子

PROFILE

（しのはら・さとこ）日本女子大学 学長／建築家

千葉県生まれ。日本女子大学家政学部住居学科卒業後、同大学大学院修士課程修了。香山アトリエを経て、空間研究所主宰。1997年から日本女子大学で教鞭を執り、現在、日本女子大学家政学部住居学科教授、2020年より同大学学長。文理融合の学びを提供する女子総合大学として、学部学科再編を伴う「大学改革」を推進する。

日本女子大学

東京都文京区目白台 2-8-1
03-3943-3131



住宅という

概念を破り、

より広い領域で考える

秋葉 2024年4月から、建築デザイン学部が日本女子大に開設されますが、開設のプロセスなどについてぜひお話をお聞かせください。

篠原学長 本学は、家政学部の中に、住居、児童、食物、被服、家政経済といった様々な学科があり、122年前の創立の頃より文理融合の学びを提供してきました。

当時より理系的な要素から芸術的な要素まで色々なのが家政学の中に内包されており、「女に学問をつけてどうするんだ」という明治の時代において、いや、女性が学問をやることは家族を大切にし、家を守るということに貢献するのだと男性たちを説得する大義名分を創立者の「成瀬仁蔵」が作ったのではないかとさえ思います。

さらに、成瀬は医学部も作る構想を持ち、今の住居学科へつながる工学的理学的な要素を入

れるなど家政学部は常に進化を遂げてきました。そして、30年前に理学部は家政学部の中から独立しています。

来年はいよいよ建築デザイン学部ができますが、家政学部の中で、より専門性を高めるためのリコンストラクションに至ったわけです。

これまで住居学科は非常に多くの建築家を育ててきました。ただ、家政学部住居学科というものがその名前が故に、ある一つの括りの中で見られてしまうのは、少し残念だなと思うこともありました。建築デザイン学部では家政学部の住居学科として大切にしてきたヒューマンズケールやアイレベルといった、実物大の感覚というものを持続しながら、より広い領域で活躍するイメージを持ってほしいのです。実際にカリキュラムにはグローバルな要素や、コンピュータシオンのデザイナーのアドバイスを探り入れたり、デザイン系の先生を補強するなど、住居学科としても取り組んできました。加えて、元来の住居という殻を破り、住む生活環境、居

住環境というものをもう少し広い領域で考えるべきだろうという思いもあります。

日本の

「建築デザイン」が誇るソフトの力

秋葉 日本人はもちろん、建築デザインを学びたいという海外の学生さんも増えていると伺いましたが。

篠原学長 日本に留学したい学生は、かつての高度経済成長の時代とはまた違った人達が希望しているようです。例えば、文化やデザインなどを日本の成熟した環境の中で学びたいという人も多く、建築デザインという領域は、日本が世界に誇れる領域なのではないかなと思っています。生きていくためのフィジカルの環境に、もう少しソフトなものを混ぜて豊かなものにするというところに、今の日本の先進性があり、それを代表するのがまさに建築デザインなのではないかなと思います。

秋葉 日本女子大での教育を通して、学生さんに最も学んで欲しいことは。

篠原学長 建築家も含めデザイナーを育てたいと思っています。デザイナーというのは、様々な状況に対してオーナーシップ、つまり当事者意識を持てる人だと思っています。自分が与えられた環境の中で、受け身になるのではなく、自分が関わることでそれを変えられる、より良くする、楽しくする、豊かにするということを考える力やイメージできる力を身につけてほしいと思います。

秋葉 今回開設される建築デザイン学部では、特に力を入れたい、充実させたいとするカリキュラムやプログラムはございますか。

篠原学長 そうですね、設計スタジオに関してさらにメンバーを補強しながら充実させるということですね。そして、海外に出ていくプログラム、それも単に海外における建築を見学するツアーではなく、海外の学生と協働して取り組むプログラ



建築総合演習の授業

建築デザイン学部のコンセプトは、「建築でかなえられることのすべてを。」伝統ある家政学部住居学科の教育、「利用者や居住者の立場から考える」を拠り所にして、住居・建築・都市など、住生活を包含する「環境」を様々な視点から理解し、デザインできる専門性の高い人材の育成を目指す。

ムを充実させたいですね。本学では建築総合演習と呼んでいますが、つまりグローバルデザインスタジオというべきものを構築するためにはやはり、語学教育や建築英語という科目も必要になります。これからは、海外の仕事をすることがあ

る意味必須な時代になりますから、教養として語学を習得するというよりは、海外の人とのコラボレーションのための語学力を身に付けることで相手に対する理解を深めつつ、コミュニケーション能力を磨いて行ければよいと思います。

建築デザインが示す、

新たな視点

「ジェンダーキャンセル」とは

秋葉 建築界での女性進出につれ、女性目線、ジェンダーなどのキーワードについてどのような対応されていますか。

篠原学長 最近の女子大学への逆風というか、なかなか厳しい中でも女子大というのはやはり強いキャラクターだと私は思っています。女子大生は4年間をジェンダーフリーな環境の中で伸び伸び学べますから、当事者意識もあり、どんな立場であっても、その事態に前向きに取り組める、自分事として取り組める、という姿勢が身に付くと思います。

語学は教養科目でも学びますが、やはり建築の話が英語でできないと駄目なので、建築英語という科目を作り、建築業界におけるテクニカルな表現も身につけてもらおうと思っています。

私はシェアハウスや集合住宅などを多く手掛けていますが、ジェンダーイノベーションの話が良く出てきます。例えばキッチンにおける寸法なども、家事の中のルーティンワークとして、女性目線で作られてきたと思うのです。

今は、家庭科も男女共修になり、男の人たちも普通に台所に立つし、家事もやります。職場でも「育休をとれ」と言われていますし、だいぶ昔とは変わってきたと思います。女性が仕事を続けて行く上で、結婚や出産、育児、加えて親の介護などにも対処する必要があります。これは自分だけの責務だと思わなくていいと思います。皆を巻き込んだらいいし、家族を巻き込



百二十年館

設計は、日本女子大学卒業生で世界的に活躍している著名な建築家の妹島和世氏。創立百二十年周年記念事業の一環として、2021年2月に竣工。1階・地下1階は、大中小の合計23の教室とJWUラーニング・コモンズかえで、2・3階は、教育学科を除く人間社会学部の研究室がある。地下のパティオは、学生の憩いの場であり、また学生の発表の場としてのイベントスペースとなっている（13ページ写真の杏彩館、17ページ写真の図書館も妹島氏の設計）

んだらいい。建築に限らず、仕事を続けて、家庭も両立させるといった時には周りの人にも当事者意識を持たせ、巻き込む力が必要ですね。

デザイナーに限ったことではありませんが、女性はインタラクティブというか、双方向な関係を色々な場面で作れないと、仕事と家事の両立は難しいかもしれません。

秋葉 今後、建築業界で女性が活躍する心構えなどについて教えてください。

篠原学長 女子大の教員は半分以上女性という逆転現象の世界で生きてきたので、何とも言えませんが、やはりゼネコンなどで管理職全員が男性というのは少し変だと感じますね。そんな時それは変だと口に出して言うことも大事だと思いますよ。日本の大抵の女性は、自分から引いてしまうというか、分をわきまえてしまう感じがするので、皆がもう少し対等な関係で生きて行くためにどうしたらよいかということを考えなければいけないのです。

Column 篠原学長主宰 「空間研究所」の シェアハウスデザイン



SHAREtenjincho

一般的に、プライベートな空間となるマンションのテラスが、階段によって連続することで、コモンスペースへと変わる。それが、建物の顔ともなり、ただの避難階段を超えた、住人のための立体的な庭となる。



SHAREyaraicho

鉄骨造の大きな箱の中に、4つの小さな箱が入り込んだようなつくりを持つ。大きな箱はテント膜によって、近隣から隔てられ、視界は遮りながらも、柔らかな光が内部に差し込む。それぞれの箱の間には、大小の空隙が設けられ、その間を空気や音が通り抜けたり、ものが置かれるスペースとして使用されたりする。



そして、仕事に対するオーナーシップを持つことと、他人を巻き込む力を蓄えることの2つを実行することです。建築も一人で解決できることはほぼありません。私たちは建築の意匠をやっていますが、意匠だけで設計は終わりではなく、設備があり、構造があり、それがまとまった後で施工会社があ

り、現場でのやりとりがあつて、というコラボレーションのフロアがあるわけです。建築では特に巻き込む力を養うことが大切になります。

秋葉 篠原先生が建築家としてお持ちの信条やエピソードなどをお聞かせください。

篠原学長 私にとって何のため

に建築を作るかといえば、同じ家族の中でも異なる価値観やジェネレーションのギャップがある人々が建築を共有し、共に住めるスペースを提供するためではないかと考えています。共有する場所をデザインでコントロールするのが建築ではないかと、ずっと思っていました。

私は若い頃にはずっとワンルームマンションの設計をしており、その内それが次第にデザイン・ズマンションと呼ばれるようなスタイルに変わって行き、クライアントであるオーナーさんは個人住宅の場合と違い、きれいに格好よく作ってあれば、利回りもいいし文句も出ません。それと同時に、そこに住む単身者の暮らしの様子、人との出会

い方、生活圏の範囲などの調査を始めたのですが、特に実りのある調査結果も得られないなど思っていたところに、「シェアハウス」というものが出てきたので、その調査を始めたところ、これは面白いということになりました。異なる属性の人が、一緒に気持ちよく共存していくために、建築はどうあるべきなの

か、どう調整して、どうエンカレッジしていくことができるのかというのが、私にとってずっと一貫したテーマになっていきます。人と人との間を調整するのが建築の役割かなとも思います。

努力する人にのみ

神はささやく

秋葉 これから建築デザインを学ぶ学生さん達へのメッセージがあれば。

篠原学長 やはり学生は一人ひとり違います。何も言わなくてもどんどん気付いて積み上げていけるタイプ、立ち止まってじっくり考えるタイプ、色々な学生がいるので、それぞれの何か特性を見出して、良さを発見していかないといけません。毎年新しい学生が入って来ますから、ルーティンと捉えず、「面白いと思ってるので教員を続けられてるのかもしれないね。学生には、やはり何事にも好奇心を持って欲しいと思います。好奇心が、クリエイション、想像力に繋がっていくためには、

やっぱり我慢して覚えたり、習得する期間が必要です。

建築は大学に入ってから初めて学ぶもので、よく言うのですが「あいうえお」が書けなければ言葉は書けないし、言葉覚え、文法を覚えなければ文書は作れない。だから、「何かこれ面白いんじゃない」という自分の好奇心を創造に繋げていくための忍耐も必要だということとを忘れないでほしいですね。建築のデザインを始めると、サラサラとすぐ綺麗な絵が描ける子とそうでない子が必ずいます。が、努力しない人に神様は何もささやきませんよいつも言っています。元々センスがあつて何か綺麗なものができるといいう人は、そこそこはいくのですが、最終的に建築として何か意味あるものを作るとすれば、それはやはり努力と経験から生まれるひらめきが必要です。ひらめく柔らかい感性と努力を諦めないタフネスを持ち続けてほしいなと思います。

また、これからは建築を学ぶ人が単に図面を引くだけではなく、街づくりや人々が集まる居

INTERVIEWER

【取材】
秋葉 早紀 (あきば・さき)
取材ナビ広報担当
二級建築士

建築業界での女性の活躍が増えているなかで、日本女子大学生の活動や将来の活躍に注目したいです。働く女性として、仕事に対する考え方や目指しているものに、とても感銘を受けました。



秋葉 これから建築デザインを学ぶ女子学生さん達が、人とのつながりや心地よい居場所づくりや大いに興味を持って学習に取り組んでいただけたら、文字通りに「住みよい社会」の構築に貢献してくれることでしょう。本日は、大変興味深いお話をお伺いすることができました。心より感謝申し上げます。



VOL. 15

改修工事現場における、 安全・安心・美観を追及

株式会社国藤産業

中央ビルト工業株式会社

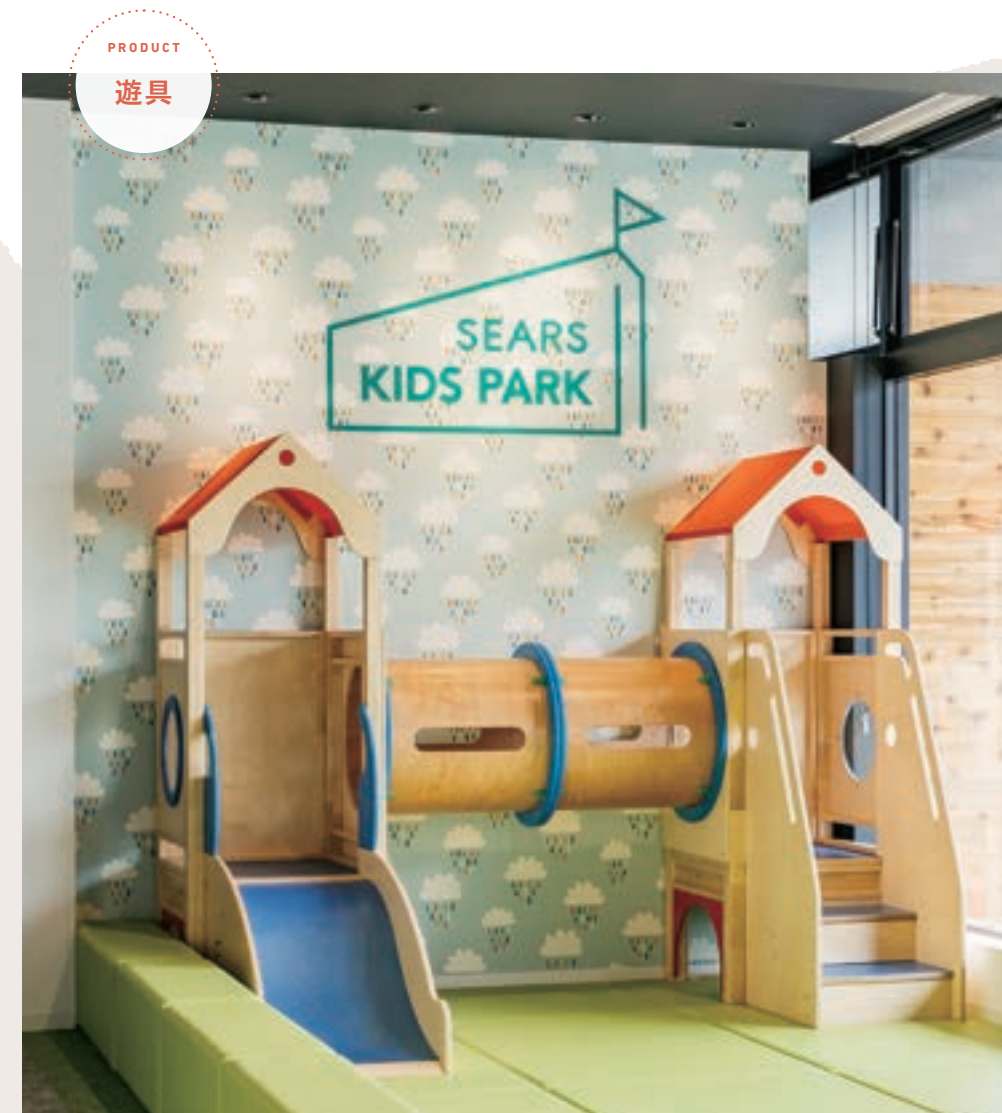
建 物の総合リフォームを
中心に関東近県で多数
の実績を積み重ねている株式会
社国藤産業の後藤氏と、お客様
の声に耳を傾け、安全で高品質
な製品を提供し続ける中央ビル
ト工業株式会社の沖氏と田村氏
のプロジェクトストーリー。
マンションやビル等の改修工
事を行う際の安全性と防犯に
いいフェンスを探して出会っ
た「スカイフェンス」について、
両者の出会いから施工に至るま
でのストーリーを語って頂きま
した。

PROJECT STORY 建 材 ナ ビ

出会いと 創造

メーカーと建築家の
ジョイントプロジェクト

建築家と建材メーカーはどのようにしてマッチングに至ったか。プロジェクトはどう
完結したか。建材ナビを通じて知り合った、建築家と建材メーカーの両者にイン
タビュー。知り合ったいきさつ、施工案件の内容、施工のコンセプト、材料の選
定と提供など、現場のリアルをたっぷり語って頂きました。建材ナビのインタビュー
コンテンツ「すまいリング」でも同時紹介しています。



VOL. 14

家族みんなが楽しめるショールームの 目玉として「遊び環境」を採用

株式会社シアーズホーム

株式会社アネビー

そ こに住まう方々の家族
の笑顔が溢れる家づく
りを目指し、それぞれの家族に
寄り添ったプランを提唱する株
式会社シアーズホーム・シア
ーズヴィレッジ店長の小副川氏と、
安全性や品質が高いだけでな
く、遊びの価値や機能性を満た
した遊具を提案する株式会社ア
ネビーの古賀氏とのプロジェク
トストーリー。子どもの遊びを
真剣に考え、「施設の文化を育
み伝え、物語が生まれる遊び場」
を創りたいとの願いが、ファミ
リィが楽しめる住宅展示場とい
う新たな環境で開花したプロセ
スなどを語って頂きました。

家族みんなが楽しめるショールームの 目玉として「遊び環境」を採用

ファミリーで楽しめる 体験型住宅ショールームを

「シアーズヴィレッジ」は熊本
県北最大級の体感型ショールー
ムで、家づくりを検討中の方は
もちろん、ご契約いただいた方
等様々なお客様がお見えになり
ます。お打合せにご来場される
お子さまにとっても退屈せず楽
しい思い出になるような空間づ
くりを目指し、遊具を探してい
ました。

空間設計を「浦田デザイン
室」様に相談していたのです
が、遊具のご相談をした際にア

ネビー様をご提案いただき、採
用させて頂くことになりました。

バランスの取れた 色使い、形、手触り、 質感が採用の決め手に

「浦田デザイン室」様からのご
紹介でアネビー様の遊具につい
て知り、パッと目をひく色使いや
形・手触り・質感等のバランスを
見て検討し選ばせて頂きました。
入口付近にキッズスペースが
あり、その一角に遊具があるの
ですが、ご来場されたお子様が
遊具めがけて走っていく様子は
シアーズヴィレッジのお馴染み

の光景です。直感的に「楽しそ
うな場所」と思っていただけで
いるようで、とても嬉しいです。

子どもが遊びたいという 思いを大切にしたい 「モグラのお家」

アネビー様以外の会社さんの
遊具も検討しました。設置した
時のショールーム全体のイメー
ジと合うものがあまりなく、コ
スト・仕様（質感・見た目・大
きさ等の点を社内で検討した結
果、アネビー様の「モグラのお家」
が最適でした。

子どもたちにとって 快適でより安全な 遊び環境を実現

遊具を採用する際に、遊具が
収まる大きさなのかというところ
が苦劳しました。具体的には、
滑り台がある遊具を選んだの

で、キッズスペース内に滑った後
に必要な余白のスペースと元々予
定していたお子様が遊ぶスペース
が収まるのかどうかという点で
す。それから、遊具の重量も踏
まえてプレイマットの選定もア
ネビー様に相談しながら準備し
ました。

お客様との打ち合わせも よりスムーズに

ご来場されたお子様が楽しく
過ごされている様子を見ていて、
こちらもとても嬉しく思ってお
ります。また、お子様が退屈せ
ず遊んで過ごしているため、保
護者の方も安心してお打合せし
て頂けているようで、社内のス
タッフからも好評です。

も助かりました。

今回は、建材ナビを通してア
ネビー様とのコラボが実現しま
した。建材ナビにはカテゴリー
や取り扱いの建材もとても多く、
困った時にたどり着くような検
索サイトです。本当にたくさ
んの選択肢がたくさんあるので、
ふわっとしたイメージしかない
時やこういう製品が欲しいとい
うものが明確でない時に利用す
るとよいでしょう。



- 1 入口付近のキッズスペース。ご家族がお打ち合わせ中でも不安に思うこと
なく、お子様にとって楽しめるものとして遊具を検討した。
- 2 今回採用された「モグラのお家」。階段からトンネルを潜ってすべり台で降
り、シンボリックな遊具。小さな隠れ家や、ネズミの仕掛けなど、好奇心
をくすぐる要素が詰め込まれている。
- 3 熊本県北最大級の体感型ショールーム「シアーズヴィレッジ」。建物外か
らでもキッズスペースが確認できる。

発達の土台を作るのは 遊びから

アネビーは、子どもの遊びを
真剣に考え、「施設の文化を育
み伝え、物語が生まれる遊び
場」を創りたいという想いで、
これまで多くの園庭や遊び場、
保育室を生み出してきました。

アネビー公式サイト 「新五感」について



のご依頼も増えております。
時代や地域のニーズに寄り添
いながら、一人でも多くの子
ども達が笑顔になれる場所を
作っていきたいと思います！
室内や屋外、スペースの大
小に関わらず、遊び場のこと
ならなんでもご相談ください。

子どもたちの育つ力となる 「遊び環境」を創造する

私たちが取り扱っているのは、
ドイツHABA社の遊具です。
HABA社は、乳幼児向けの
家具や木製の玩具をつくるヨー
ロッパ最大企業のひとつです。
小さい子が安心して使えるよ
う、角は半径5mmで丸く面取
りされ、口に触れても問題がな
いよう塗料は食品衛生基準に合
格したものを使用しています。

遊具を通して子どもたちの 大切な感覚を育む

当社では、子ども達の「遊
び環境」をつくること、安全性

今回は定型品を選定いた
しましたが、ごっこ遊びや体力
遊びなど室内でのさまざまな遊
びに対応できるプレイハウスは、
子どもの年齢や遊び方、部屋の
サイズに合わせて400種類
以上のパーツからオリジナル設
計が可能です。

や品質が高いだけでなく、遊
びの価値や機能性を満たした
遊具をご提案しています。子
どものうちに獲得しておきた
い根っこ力（非認知能力）を
育むためには、その土台となる
感覚をたくさん刺激すること
が重要です。

その中でも、将来の学習や社
会性の基盤になる大切な5つ
の感覚が、「視覚」「聴覚」「触覚」
「前庭覚」「固有覚」で、アネビー
では「新五感」と呼んでいま

その背景には、「遊び環境を
遊具の力で変える」ことがで
きる、と考えるからです。数
多くの遊び環境づくりのノウ
ハウを活用し、病院や住宅展
示場などのキッズスペースや、
発達支援の環境づくりにも役
立てています。

近年、あらゆる人が一緒に
遊べるインクルーシブな遊び
場や、保護者同士の憩いの場
にもなる子育て支援施設など

株式会社アネビー
東京都渋谷区元代々木町 33-8
元代々木サンサンビル 5F
03-3465-4828



古賀有紗 福岡営業所 営業課／設計課 係長

保育士資格を取得し、子どもや現場の視点に立った提案
を心掛けています。今回は建材ナビを通してお問い合わせ
を頂き、スムーズなやりとりの後、3カ月程で納品させ
て頂きました。



株式会社シアーズホーム
熊本県合志市幾久富 1656-658
096-288-1333



小副川慎也 シアーズヴィレッジ 店長

十人十色、人それぞれに家族の数十年後の思い出の背景と
して出てくるような住まいにしていいただけるようお手伝い
いたします。



改修工事現場における、安全・安心・美観を追及

防犯性の高さとデザイン性が決め手に

弊社ではマンションやビル等の改修工事を行う際に居住者の方々を盗難、破壊、ゴミの投げ入れ、建物への侵入などの被害が起こる可能性から守るために現場での防犯対策に力を入れています。

防犯用になにか良いフェンスはないかと探していたところ、

社員から「このフェンスがいいと思います」と提案され、いくつかのフェンスの中からスカイフェンスを選びました。

スカイフェンスはパンチング加工で隙間が小さいことから防犯面での安全性が高いことや、従来の養生フェンスに比べて美観、デザイン性に優れていると感じました。

社内で職人も交え、足場としての機能性、防犯性、安全面、

美観性など様々なポイントから選考し、購入に至りました。

従来の製品を越えた最良の資材でした

スカイフェンスはサイズ、デザインともに使い勝手がよく、工事期間中は建物のまわりを囲みますがとてもスタイリッシュな外観になります。

また、従来の養生枠は目が粗く、マンションなど小さなお子

様の多い現場では指などが入ってしまい、思いもよらぬ事故が起こる危険性もありました。そのような安全面の観点からなどもスカイフェンスを購入する決め手でした。弊社では今後足場の仕事を新たに始めていく予定で、よい資材の調達を進めている最中でした。防犯や安全面からも、美観性の観点からも、今後資材を調達していく中でスカイフェンスを増やしていきたいと考えております。

情報の共有と出会いに感謝

中央ビルト工業様とはじめてのお付き合いでしたが、購入するにあたりとても丁寧に商品の説明をしていただきました。足場など資材関係の仕事も始める予定ですとお話をさせていただいた際に、スカイフェンスだけではなく、その他の色々な資

株式会社国藤産業
東京都千代田区神田
和泉町 1-11-8 石垣ビル 2 階
03-5829-4072



後藤和也 代表取締役社長

大規模修繕工事をメインに建物の総合改修工事を行っております。建物に合った様々な工事をご提案させていただきます。



材について詳しい説明や、相談にも乗っていただき、カタログなども手配くださいました。今後もしもお付き合いをさせていただいたらと思っております。

今回は「建材ナビ」を通じて、中央ビルト工業様と出会い、資材関係の幅が広がりました。「建材ナビ」には建築資材の調達について幅広く様々な情報を共有していただき、親身になってご協力をしていただいております。とても感謝しております。

中央ビルト工業様とはじめてのお付き合いでしたが、購入するにあたりとても丁寧に商品の説明をしていただきました。足場など資材関係の仕事も始める予定ですとお話をさせていただいた際に、スカイフェンスだけではなく、その他の色々な資



- 1 建物のまわりを囲むスタイリッシュな外観。従来の養生枠と比べて凹凸がなく、美観に優れ、触れても安全。
- 2 スカイフェンスは、サイズ、デザインともに使い勝手がよく、目が細かいので小さなお子様でも指が入らなくて安全。
- 3 巨大ターミナル駅の改修工事での使用実績。パンチング加工した高張力鋼板を使用した養生枠『スカイフェンス』。

中央ビルト工業株式会社

工事中、全ての人々の安全を守る「スカイフェンス」

今回、国藤産業様に採用された製品は、マンションの改修工事等に使用される養生枠の『スカイフェンス』です。パンチング加工した高張力鋼板を使用していることに特徴があり、一般的なエキスパンドタイプの養生金網と比較して、美観に優れているだけでなく、凹凸がないため、小さなお子様が誤って触れても安全な製品となっています。

また、タバコが入らないように孔の大きさを設計しており、タバコのポイ捨てによる火災も防ぎます。このため、工事関係者だけでなく、マンション居住者の安全も守り、施工会社にも

喜ばれる養生枠と言えます。

最近、大規模修繕工事中のタワーマンションに足場を使って窃盗団が侵入した事件がありました。この現場には侵入防止のための養生枠が設置されていなかったようです。今後もマンションの改修工事が増加するところが見込まれていますが、昨今の事件等もあり、防犯面から養生枠も、より安全なものが求められるようになって思われます。

ネット検索が結んだ最適製品

国藤産業様はスカイフェンスをもともと保有しており、職人さんの強い希望があり、今回追加購入を検討いただきました。しかし、購入を検討するも、メーカーや製品名が分からなかった

ため、インターネット検索サイト「建材ナビ」を検索していたら当社のスカイフェンスに辿り着いたそうです。

ベストな製品をベストな価格で

ユーザーの要請に応じた、安全で利便性の高い製品を提供し続けることを使命としています。材料・エネルギー価格の高騰によるコスト高をすべて製品価格に転嫁するのではなく、海外も含めた OEM 製造によるコスト削減で安全な製品を低コストで提供することをお客様のニーズに応えます。

「お客様のニーズに寄り添う」を徹底

主力の仮設機材事業において、

販売推進部の人員増強により販売力強化を図り、新規顧客開拓を推進。「お客さまのニーズに寄り添う」ことを徹底し、共同開発等に注力して新商品開発を加速する。

コスト面では、次の3項目をクリアして行きます。

- 1 一部製品の海外も含めた OEM 製造によりコスト削減する。
- 2 資材供給体制（機材センター）の見直しによる間接コストを削減する。
- 3 機材統括部設置により保有機材の効率化を図り新規投資を抑制し、より筋肉質で利益の出せる体制を構築する。

中央ビルト工業株式会社
東京都中央区日本橋
富沢町 11 番 12 号
03-3661-9631



沖 雅仁
販売推進部 部長

仮設業界で 30 年を超えるキャリアを誇る。長年の経験に裏打ちされた確かな知識と明るい人柄もあり業界内での人望も厚い。お客様重視の姿勢で信頼関係を構築することを心掛けている。



田村 芳政
経営企画部 マネジャー

調理師と証券アナリストの資格を持つ異例の経歴の持ち主。中央ビルト工業株式会社では、経営企画から営業企画・営業支援・販売促進、主要材料の購買まで幅広い業務に携わる。仕入先からエンドユーザーまで人のつながりを大事にしている。趣味は株式投資と犬活。

新たな時代に
適応する解決策を、
多様な選択肢から

MANUFACTURER

建材メーカーのこと、建材業界のこと、製品はどのように生まれるのか、施工実績がどのように社会に影響を与えるのか、ものづくり企業としての、苦労や喜びなどの想いをたっぷり語っていただきました。

建材メーカーへのインタビューは、建材ナビのインタビューコンテンツ「すまいリング」でも同時紹介しています。

SumaiRing

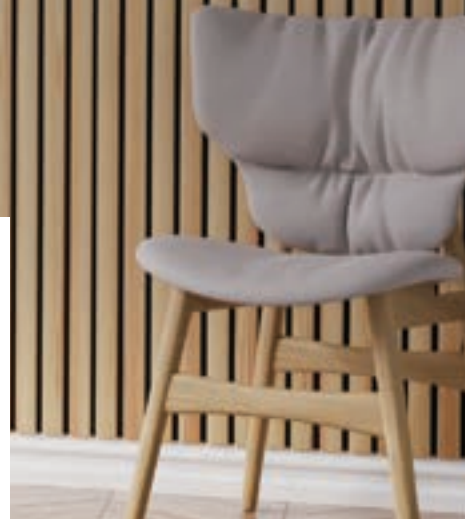


和紙づくり職人を大切にし
日本の伝統文化を
届ける

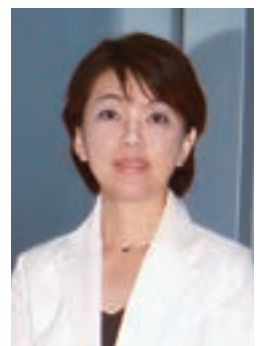
株式会社和紙来歩

装飾材に「曲がる」という
画期的なインセンティブを
加える

みはし株式会社



新たな建材の使い方に挑戦 装飾材に「曲がる」という 画期的なインセンティブを加える



河野寧子
インテリアコーディネーター／
商業施設士／リフォームスタイリスト1級／
照明士 他

1995年みはし㈱に入社。インテリアコーディネーターや設計士に面材の幅広い使い方を提案する。その後、大型物件の特注形状の積算を行い数多くの製作図を手掛ける。「レイワシリーズ」や不燃材の立ち上げにかかり、今は宣伝部の任にあたる。

みはし株式会社

埼玉県和光市
白子 3-26-43
048-464-0384



吸音機能を兼ね備えた 壁面装飾パネル

7mm厚のフェルトベース=10×25×2,400mm
のカラー付きバイン材を43mmピッチに縦に並
べた壁面装飾パネル。吸音や遮熱効果もある。

寒冷地で育った 木目が詰まった丈夫な モールドディング材

今年8月新発売した木製モ
ールドディング材「サントニア」シ
リーズは、エストニアからの輸
入品です。寒冷地でゆっくり育っ
たバイン材を使用しているため、
通常のバイン材より木目が詰
まっており丈夫で高品質です。
フレキボードはそのまま平面

の壁へ施工することもできま
す。ベースがフェルトのため、裏
に筋を入れると曲げることがで
き、アール面のようなカーブや
ウェーブの壁面にも対応します。
また同シリーズには廻り縁、
腰見切り、巾木、ドア枠として
も使える開口枠があります。専
用のワイヤーを引っ掛けること
で、壁に穴を開けずに絵や写真
などを飾ることができるデザイ
ン性に優れたピクチャーレール
をご用意しました。また施工性

の良い巾木は、留め具で固定で
きます。

フレキボード、ピクチャー
レール、巾木留め具の施工方法
は、WEBより動画で公開して
います。

装飾材「サンメント」の 開発から 半世紀のあゆみ

1973年、埼玉県和光市に



サステイナビリティへの 取り組み

毎年発行している自社制作カ
タログはFSC認証紙、インク
は植物性を使い、印刷工程は再
生可能エネルギーを利用して製
造しました。

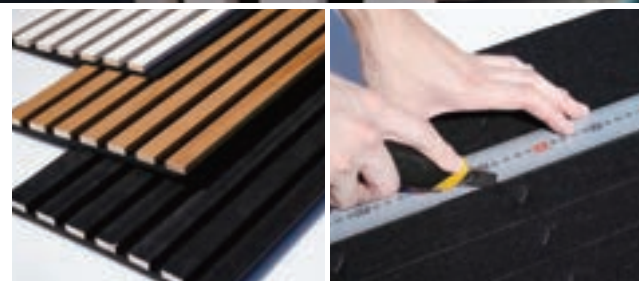
製品を確認できる ショールーム

東京・青山と玉川工場の
ショールームでは、「サンメント」
を中心に様々な製品を展示して
います。

モールドディングに 不燃という新たな 価値観を追加

弊社は、木材の欠点「燃える、
腐る、狂う」を克服する新たな
建材の開発に挑んでいます。従
来の加工技術を生かし、1994
年に不燃装飾材「サンメントセ
ラ」を発売。内装用装飾材に不
燃という新しい価値を加えまし
た。（国土交通大臣不燃認定品…
NM18578、NM2086）

その後外装用不燃、窯業系押
出建材サンメントセラEXEを
発売。中をくりぬいて軽量でス
リム化した製品を、2年前にリ
ニューアルし、新たにシンプ
ルな大型形状を増やし、リーズ
ナブルな価格設定と仕様で販売
しています。一つの形状で、木製
や不燃内装材、不燃外装材と対
応しており、同じ面形状での材
質違いを販売しております。
10年前から海外にも工場を持
ち、今年は第二工場も増え、海
外事業をグローバルに展開して
います。GRG、GRC、FRP
製などの大型形状の加工や、大
型物件などの特注品の製作に対
応し、施工を手掛けるグルー
プ会社、みはし工芸ではこの不燃
材を多種取り扱い、「イメージを
形に」をコンセプトに大型の特
注形状を材工で行っております。
有名化粧メーカーのディス
プレイパネルや什器を納品させて
頂いたり、本や映画や舞台で世
界中のファンを熱狂させた、話
題のテーマパークにも内・外装
材に弊社のモールドディング製品
が使用されています。また、ま
もなくオープンする、某大手会



曲がる木製パネル「フレキボード」

ベース裏面のフェルトに切り込みを入れると湾曲に曲がるのが特長。カーブや
ウェーブ面などアール状の壁面に沿って取付可能で様々な形が表現できる。



Merucure Hotel Kyoto Station
(メルキュール京都ステーション)

メインロビーに配された、折り紙の蹴鞠は、熟練の紙漉き職人が一枚一枚漉き上げる手漉き和紙「オリジナル koyori 和紙」。

日本の美はしとやかに美しい

和紙づくり職人を大切にし
日本の伝統文化を届ける



加藤富美代

代表取締役
和紙プロデューサー

草木染め作家の父と、日本舞踊の師匠である母との間に生まれ、幼い頃から伝統文化や芸術にふれ、そして導かれるように和紙の世界を知り引き込まれて行く。和紙の魅力を知るほどに業界の厳しさも痛感することとなり、使命感を持ち 2007 年に株式会社和紙来歩を設立。

株式会社和紙来歩

京都府京都市
南区上鳥羽角田町 52
075-681-9123



「和紙」という
言葉が与える誤解

弊社は 100 年の歴史を持つ和紙問屋の知識を受け継ぐ和紙の総合プロデューサー会社で、日本全国の和紙を取り扱っており、お客様の用途に合わせてご提案しています。建物に合わせた内装材として、北海道から沖縄まで、全国の産地から繊細な和紙をご提案できることが強みだと

思います。

和というイメージから、和紙は日本製と思われがちです。

ところが、海外から入って来た紙であっても和の表情があるものは「和紙」に分類されています。これは「和紙」という言葉に定義がないからです。

その定義がないことが原因で、17、8 年前に、弊社の親会社である「株式会社加徳」は、産地を偽装されるという被害に遭ってしまいました。オリジナルの

和紙を製作している加徳は歴史のある紙問屋で、「桂」というブランド名で、襖紙や障子紙などを幅広く展開していました。美濃和紙という岐阜産の和紙を、加徳は年間に相当量販売してブランド品になっていたのですが、その美濃和紙が、実は高知産だったことが判明したのです。それまでの美濃和紙で築きあげて来たブランドが、産地が違うという理由で全て廃番となってしまいました。

それ以来、私はお客様には必ず「和紙には定義がない」ということを最初に伝え、原産地や原料の配合などもできる限りよく調べて、正しい情報を正直に伝えることを心掛けています。

藍染の和紙を
照明器具に加工する
取り組み

弊社は、和紙で何が製作できるか、和紙でどんなことができるかを常に考えています。内装に使う紙、からかみ、襖、障子など、和紙のものは言うまでもなく、襖の材料なども扱います。和紙来歩が提供している襖は、縁を漆の職人が塗っておりまして、その職人と一緒にアートパネルを製作したり、和紙を使ったアートパネル作り体験イベントなども開催しております。

また、布や糸などの染めに使われている「藍染」を弊社の紙で試してみようと、藍染職人の工房に和紙を持ち込み、ここ半年くらいどのような染まり方をするのか、実験も兼ねて藍染体

験を繰り返しています。藍染めの紙は世の中に沢山ありますが、その職人は藍を育てるところから始めており、その藍と弊社の紙とで何ができるかという試行錯誤を繰り返しながら製品化の道を探っています。

今は、藍染の和紙を照明器具に使うための加工に取り組んでいます。そういった、新しい取り組みは積極的に増やしております。

手描きの伝統技法で
実現した湯島天満宮の
「可動式床間」

湯島天満宮の宮司様からのご



可動式床間

湯島天満宮社務所の可動式床間。銀色に見える梅の柄は薄っすらピンクに色付いており、光沢ある銀も角度によって見え方が違う。

都市建築において目指すもの、それは

木材の復権

東京木材問屋協同組合

木材をこよなく愛し、その魅力を知り尽くす木材のエキスパート達が集う、東京木材問屋協同組合。木材の復権をかけて「もっともっと多くの人々に木材の豊かなポテンシャルを伝えたい」という、熱い思いを語っていただきました。



東京木材問屋協同組合

東京都江東区新木場 1-18-8 木材会館
03-5534-3111



木材の やさしさ・強さ・美しさを 具現化して魅せます

東京木材問屋協同組合 理事長

庄司良雄

PROFILE

(しょうじ・よしお) 東京木材問屋協同組合 理事長
創立100年以上の歴史と伝統を誇る組合の理事長として、木のまち新木場において「木材会館」を運営すると共に、木材のやさしさ・強さ・美しさを具現化したランドマークを通じて、都市建築における木材利用を推進している。

木材利用促進への 先駆的取り組み

秋葉 本日は、東京木材問屋協同組合の歴史および、「木材会館」について、その成り立ちや託す思いなどを組合理事長と幹部の方々に、それぞれのお立場からお話を伺いたいと思います。

庄司理事長 はい、問屋組合は明治39年に創立、今年で117年になります。私は21代目の理事長となり、歴代の理

事長を始め、組合員の方々が築かれた基盤と組合のご理解とご協力を得て、今のところ安定的に事業を継続しております。

とはいえ、ここで117年間の歴史を全て話すことはできませんが(笑)、ちょうど100年という節目に、それ迄深川にあった木材会館をこの新木場に移転ということになりました。そして、その際にどうせ建てるなら100周年事業の一環として、業界の広告塔とすべく木材をふんだんに使った会館を作ろうということになりここに現在

の「木材会館」が完成したわけですね。

この木材会館ができたおかげで、「公共建築物等木材利用促進法」というのができまして、それからだんだん今度は国内の木材を使いましょうという気運が高まり、都市部でも鉄とかコンクリートとかではなく、木をふんだんに使った建物が推進されるようになったという、やはりこの木材会館は時代のトップリーダーというか先駆けの建物であると思っております。

秋葉 そうですか。では次に問屋組合さんの普段の活動の様子などを教えてください。

庄司理事長 はい、組合の中には10の委員会がありまして、いろいろな活動やイベントなども企画し、参加してもらっています。理事会はこの会議室で毎月開催され、各委員会の委員長が、その活動状況を報告することになっています。

そもそも協同組合は中小企業の集まりであり、組合員による組合員のための運営という方針に沿ってやっています。

岡田常務理事 イベントなども大いにやっていますよ。現在は全組合の約300人が7つの班に分かれており、組合から活動補助費も支給されており、各班で会議や勉強会・懇親会を行う等、組合員間での交流を深めています。

コロナ禍にはやっていなかったのですが、「木と暮らしのふれあい展」というのも木場公園でやっています。最近になってようやく、組合としても集まったり動き出せるようになり、市場がどうなっ

いるか、価格はどうかなどという情報交換ができるようになった点が一番大きいですね。

庄司理事長 問屋組合の組合員も、木材製品の他、原木や銘木、製材、加工、合板等、取扱は多岐にわたっており、産地についても、秋田や木曽、吉野等の国産材の他、北米や北洋等の輸入材を扱うところもあり、幅広く分散されています。

組合員の中には、業種や取扱

品、お取引先等、競合しているところもありますが、今のところ不思議なくらい皆仲良くやっているんですよ（笑）。

秋葉 情報交換の場であるということは、組合に参加する大きなメリットですね。そのほかに組合として最近取り組んでいることなどはありますか。

岡田常務理事 今年度から始まったのが人材確保ですね。若

手の従業員をとにかく入れないと業界が老年化していくという危機感から、今後重点的に取り組んでいく予定なのですが、思ったよりニーズが少なく今のところあまり手ごたえが感じられないのですが……。

これはちよつと長期的に考えないといけないと思うんですね。元々労務委員会というのがあつて、かつて労働者を集めるために集団就職を斡旋したり、あと

各農業高校を回って就職をお願いしに回ったりなどの活動を問屋組合としてやってきましたが、思ったよりもニーズがないというのが今の私の反省点かもしれません。

チャレンジの歴史は

100年前から

岡田常務理事 問屋組合の業界では、最近構造化というのはあまり扱わなくなってきたており、ビジネスに結び付く内装材の需

要を喚起するためには、木材の内装を使うことで、人体に良い影響があるというエビデンスがほしいのです。

もう既に千葉大学との共同研究を始めて2年目になりますが、これは4年計画で結論を出そうという長期的なビジョンでやっている研究です。

庄司理事長 入り口に入ってきた

た時にあった「木力」（もくりょく）というあれ、あれです（笑）。その木力っていうのも商標登録いたしまして。木にはリラックスさせる力があるということで、それを全面的に打ち出して木材の良さをPRしてもっと需要喚起にということで、力を入れている最中です。

岡田常務理事 触覚についての

データはもうかなり論文文化されて、いずれこれも公表できるようになると思います。

庄司理事長 この間、理事長室を一ヶ月使って触覚、視覚の実験を行いました。白い壁と木の壁を見てどうなのかとか、木の床と違う床で足がどのように感じるかや脳波がどう変わるかな

どの実験を進めています。

昔から、問屋組合というのはチャレンジの歴史なんです。例えば戦前、1922年、上野公園での平和博にメートル法木材標本の木造住宅を展示し、1924年にはメートル式組合事務所を新築する等、今までの尺貫法じゃなくて、メートルモ

ジュールに挑戦したなどの歴史があります……。だから歴代の理事長はいろいろなことにチャレンジしてると思います。

また、東京オリンピックの際には組合員の方々がどうしてもチャレンジしてみたいということで、そのために森林認証（SGEC）という資格を取りました。

本西常務理事 入札に参加する条件としてSGEC持つてるかが、ゼネコンさんからの発注の判断基準だったんですね。

岡田常務理事 カヌーをやった「海の森競技場」に使われた木材は全部、問屋組合が納品したんですよ。おそらく問屋組合で認証を受け、傘下の組合員が森

林認証まで使えるというケースは初めてではないかと思っています。

秋葉 建材ナビにも、多くの木材メーカーさんがいらっしゃいます。問屋組合さんとの情報共有などについてアドバイスをいただけますか。

井内理事 はい、建材メーカーさんに限らずゼネコンさん、設計さんにこの建物を実際に見に来ていただいて、木材の使い方を実際に触れて見てもらうのが一番いいのかなと思います。無料で見学を受け入れていますので、ぜひお気軽に来館していただきたいと思いますね。

——春号に続く



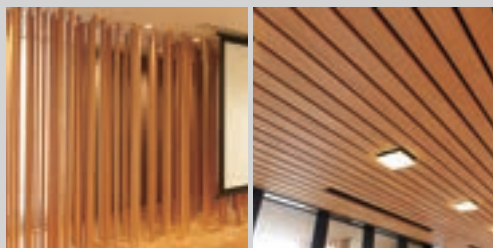
木材をふんだんに使った 時代の先駆的建物「木材会館」

「木材をふんだんに使うことにこだわりたい。しかし当時は建築基準法ですとか、消防法とかもう非常に厳しくてね……。」

そんな時代でも、木材をふんだんに使いたいという思いが、日建設計の木材への情熱に火をつけ、その知識とデザイン力と、大成建設の技術力の高さにより「木材会館」は完成した。

木材会館は、木材利用促進、木材需要拡大の先駆けとなり、造り方はもちろん、メンテナン

スについての問い合わせも多くいただいているという。



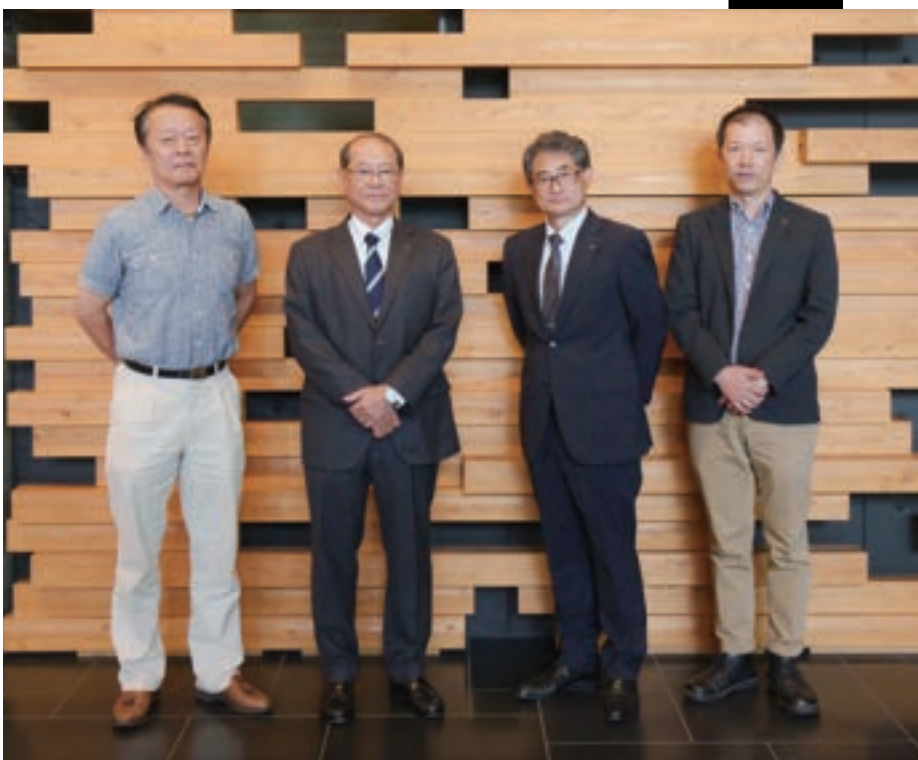
INTERVIEWER

【取材】
秋葉 早紀（あきば・さき）
建材ナビ広報担当
二級建築士

今回冬号と春号の2部構成で取材をさせていただきました。木材の良さをもっと多くの人に知って欲しいという思いを強く感じ、改めて木の美しさや魅力を考える機会となりました。



左から、本西常務理事、岡田常務理事、庄司理事長、井内理事



建材情報をトータル配信
“じっくり調べたい”を叶える



掲載数
800社
20,000製品

最新の建材ニュース、建材製品検索、製品動画やショールームの閲覧、業界記事、設計士や建材メーカーへのインタビューなど、建材業界のことなら「建材ナビ」にお任せください。

建築建材に関するコンテンツが盛りだくさん！



NEWS

新製品発売や、展示会の情報など業界ニュースを閲覧できます。



PRODUCT

建材製品の検索、閲覧、取寄せお問合せ等ができます。



MOVIE

動画で紹介している製品も多数ございます。



SHOWROOM

メーカーショールームを紹介。VRのショールームもあります。



INTERVIEW

設計士や建材メーカーの取材記事を紹介しています。



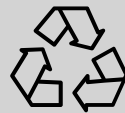
ARTICLE

建材に関する役立つ記事、業界のコラム記事等を紹介しています。



Q&A

製品や施工に関する悩みやアンサーを投稿できるフォーラム



OUTLET

不要になった建材製品のアウトレット販売をしています。

カタログの探しやすさに特化
“さくさく見たい”を実現



掲載数
4,900カタログ
23,000ギャラリー

「かたなび」はカタログの探しやすさにこだわりました。最新の建材カタログがすぐ見つかります。また選んだカタログはすぐ閲覧できて、他にも取り寄せや、相談・見積依頼も可能です。

施工ギャラリーからも探せます！

